



大型人工樹木の企画・制作 樹木名 クスノキ「鹿子の木」(カゴノキ)

- 樹高(地面～先端葉) 約8000mm
- 樹幅(最大幅)約4700mm
- 主要躯体幹数 3本
- 大・中枝数 赤マーク9本 黒マーク9本 紫マーク7本 計25本
- ※トリミング大枝 4本
- ※現場にて小枝制作 20本
- ※施工後余り1本
- 設置場所 徳島県徳島市北沖洲3-327
- 施設名 沖洲こども園
- 設置日 令和4年2月21日(月)
- 作業時間 同日 8:00～16:15 (休憩1時間) ※工房(和歌山海南市)から日帰り作業
- 人員 3名+監督者
- 全制作準備期間 25日
- 運搬 2tオープントラックに幌カバー
- 備考 吸い込みブラシ 楔数種 割れ目埋め材・屑

【今回リクエスト木】

クスノキ科「鹿子の木」(カゴノキ)



和歌山の山林でも数多く自生している鹿子の木

クスノキ科の常緑高木。主に暖かい山地に自生しています。樹皮に特徴があり、山に入ってもすぐに見分けがつきます。樹皮は全体的には灰黒色で、一部が自然にはがれて、そこが白くなり、鹿の体表模様によく似ることから命名されています。葉は先のとがった長楕円形。

工房内仮組作業



現場施工①

～徹底した安全管理～

①今回のケースでは、新築施設の白壁と内階段のスペースギリギリの設置のため、幹の引き上げ時や枝の設置には細心の注意が必要であった。またこども園という施設の性質上、枝葉は園児の手の届く範囲には、張り出せないので、建設責任者の指示に従い、トリミングを徹底した。

②足場の組み上げ、とりわけ滑車を取り付ける支柱は、100キロ程度の加重がかかるので注意して設置。滑車は、微動引き上げ作業は手動、おおまかな作業では電動で対応。

③衛生面では、コロナ感染拡大下の作業のため、終始マスクを着用した。また、建物内は上履きが義務付けられていたが、作業効率を図るため、ブルーシートを全面に敷設し、通常作業をした。



現場施工②

～幹の設置～

①メインの幹は3本。1本は慎重に地面の土台に取り付け、その後2本を所定のポジションに設置。前頁にも記した通り、白壁と階段にかなり接近した設営なので、神経を使う設置作業であった。また、25本後付けする枝の張り具合も想定する必要もあるので幹の設置はセンスが求められる。

②幹の傾き調整は、支柱ホールの際間に楔を入れながら微調整する。※事前に楔になる木を用意することも全体のフォームや作業効率をアップさせる。

③幹の設置にあたっては、足場全体の移動も何度か繰り返した。足場自体も新築養生中の内階段に近いため、相当神経を使う作業だった。



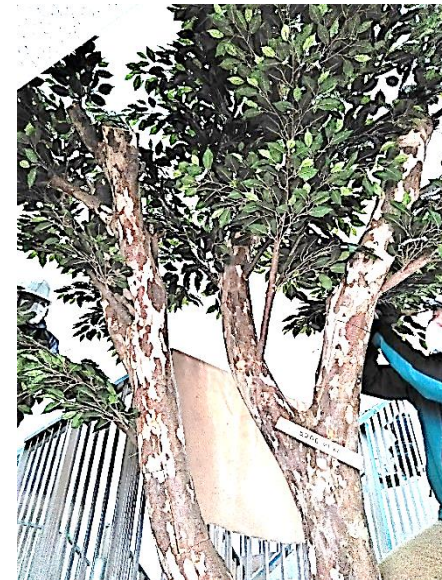
現場施工③

～枝の設置～

①支柱ホールへのボルト固定は一発勝負なので、長年の経験値が必要とされる。さらに、楔を用いて傾きなどの微調整を行う。

②幹に25本ある枝を全体のバランスを見ながら、順次設置していく。和歌山の工房内では仮組み（2ページ）をしているが、壁や階段とのバランスや建物の空間とのバランス、つまり視覚的なバランスなどを考慮することが求められる。枝を固定するためには、場合によりワイヤー（針金）による吊り上げも行う。

幹には枝が入るホールを開けているが、ホール側のナンバリングと枝のナンバリングを合わせるのが原則。しかし、建物との接触具合や全体のバランスなどの見地から、ナンバリングを合わせない箇所も発生する。今回も園児への接触を考慮して、枝の位置を1箇所大幅に変更した。また、使用しない枝も1本発生した。



現場施工④

～小枝の設置他～

①枝の設置と同時に、全体のバランスを整える重要な作業が、小枝の設置（下記黄色枠）である。この作業は現場でドリルホールを開け、随時行う。全体的に20箇所程度補充したが、この有無が全体のイメージやリアル感を一気に演出する。同時に目隠しの役割を果たす箇所もある。

②幹と幹、幹と枝の接合部には、クラックや微妙な隙間が生じる箇所があり、その対処法として、おがくずの糊付けや端面による埋め込みなどがある。そして仕上げには茶系のスプレーペンキをセンス良く塗布する。

